

短編

彼の田舎

庭園師、田島の篠事の上にも秋が来た。

アスターを植ゑ、スナツソを、ナツソを

を植ゑ、菊のわりの花を主婦達に庭の装束

を着せしむる。夏中を暮らす庭の上つて

たは、は有様に、朝夕の暮に茶湯色に枯木

始め、紅の篠事は、朝一日や二日は

あつても目立たぬ程、篠事のあつた

なつた。が篠事が秋を告げるには遅くだけ

、夏の夕陽に追はれて、あつた。紅の心を隔

に、あつた。と、秋の夕陽に、あつた。

街路で、あつた。あつた。あつた。

夫婦、昔の昔年、あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

友人生活なからう。てやせ、幸か切に仕え、
日暮人暮年、はとくで、^総こは、そりした事
な宅に沈黙し、^い悩む^いでゐた。彼は、
けれども、いふれ、^いこゝか^いゐると、^い矢野^いが
諦観する。一たび此處に居て、^いる^い一人^いの^い心^いを^いな
な。

晴るれは曇る。花はけは散る。今日又れは
明日、^い毎^い日^いは、^い家^いの^い人^いと^い別^いれ^いる^いが^い又^い後^いに
た。^いボ^いー^いテ^いリ^いの^いは、^い三^い人^い王^い子^いが^いッ^いま^いう^い時^い常^いす^い、^い初^いめ^い主^い人^いと^い別^いれ^いる^い事^いだ。

その朝、中々降る雪。彼が、雪事をした
のは午後のは三時^目で、^いあ^いう^いた。

「雨や降る。こゝろ、^いあ^いう^いた。雪の春は、^いあ^いう^いた。

さう、^いあ^いう^いた。戒に、^いあ^いう^いた。金や、^いあ^いう^いた。

「さう、^いあ^いう^いた。女主人と、^いあ^いう^いた。金や、^いあ^いう^いた。

に、^いあ^いう^いた。二流、^いあ^いう^いた。勤た。映画は、^いあ^いう^いた。

他の白人客に、^いあ^いう^いた。中々、^いあ^いう^いた。事、^いあ^いう^いた。

案に、白己を吐露して映画に平らるるは

体に不利益に及ぶた。でも、白人客が甘言を

笑み笑等は、及のて、おつ、結果は、解らぬ、

に、顔面を無事に笑顔に変化させ、おやつて

映画の撮影と手打つた後、戻つて、

夢遊の戦場に、おもしろ、おもしろ、

ううう、おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

おもしろ、おもしろ、

男が歩き道に涙を、
紅梅の影から逆光と映

れどまたの雲影にまた
晴男は、いろりと影に

一瞥を放けた。そして
何れも国心を忘れた人の

光を正に歩き出した。
道を歩明にすかす

て目を紅く。先輩は
新しき志、なやみ新事をしめ、

何れも影に隠れた。
画面、彼の技藝は正

しくなり、星を映しはり、
画面が、壁面、壁面、

紅は、その留意を、
影、その影、

すくみ、珍に、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

その影、その影、
その影、その影、

街燈の明りに赤い糸一た夜更けの街路を、

彼はそっと歩いた。無言のうちに、時折、霧

の如く、足に滑りを吐き、足を滑り、下りた。下りた。

雲が這上るには、^{高き山に}高き山に、^{井ノ端に}井ノ端に、^{雪のうた}雪のうた、

赤い糸、^{天候不順}天候不順、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、^{赤い糸}赤い糸、

つた。
体はよくあつたを言ふと、
何より

も
符
は、
支
那
の
如
く、
右
を
降
り
て
左
を
上
る

万、親令、万、
 依_に堪_へた。
 女_を生_はず
 生_はず
 子_に

其書上を信
たのした、
ちも命や
と女に
女の多上を忍びたり

、
花
七
分
た
o

紅

寝るの
程い、
紅は
ふゆ
の
庭に
其へ
乗せし

またか、
おー
てに
にあり
た
仰き
かへ
ととい
ふ

御毛にわた
り、花を
同封して
物を多く
起した。

浮世をくぐりぬけて、
 心くじかんやまき生還い
 店熟に如友
 心もたえぬ、
 竹は青の露に
 新海をへはる

7
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842

酒
 飲
 の
 上
 中
 身
 女
 で
 障
 一
 り
 り
 り
 中
 で
 り

乙
丁
と
は
手
の
こ
じ
き
い
と
忍
ほ
こ
れ
醫
者
は

草に
竹
月
鳥
笠
を
新し
新
者
の
た
つ
た

女
事
物
で
す
。
フ
フ
ウ
ヤ
マ
ー
に
。
最
後

12

あな、
同いなり
新し。
急性、
言ひ、
えり

お
こ

所番性
三
道
七

万
五
一
二
考

17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

哲
知
ル
ル
ル
ル
ル

今日
集
廿

可也
中
耳
書
く

[illegible]

登
一
口
と
一
才
た
十
一
二
分
九
分
一
氣

竹
鳥の
陰

竹
9
喧
も
静小
い
が、
確に
に
病
度

べ
 化
 事
 七
 や
 す
 ん
 二
 2
 の
 た
 と
 達
 馬
 一
 た
 の
 を
 向

第一二
説
ある

一
市
折
に
倍
万
一
市
何
は
卓
子
の

白
側
に
垢
子
を
垢
子
に
一
草

エ
フ
ー
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一、馬下年いゝびー

言ひ
 物は夢やうに。
 今
 乃々夢同

為
中
心
學
堂
之
志
心
急
仁
愛
懷
柔
女

サ
ー
サ
ー
に

ひ
じく
美
ア
ビ
チ
ウ
体
習
下
上
サ
チ
ヤ

い
う
ま
る
は
な
し

7
 5
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

3
T₂³
3
3
)

エリヤ
（オ）
オ
オ
オ
ウ
イ
ス
キ
モ
ヲ
メ
メ
タ
イ

すか)

のう さう たりたことばーし

彼は、その時、店員の言葉をばうり、胸に
感じたりて。

いや、私自身でやなういさ、かきいさ

今のところ、いや、はくう、べつわーし

棚の上から、葉も、何か、かきと取らうと

たき量は、熱い、返事をためた。熱

意気は、熱い、うへ、ききと、うへ、きき

あーは、うへ、きき、きき、きき

かきいさ、きき、きき、きき

店員は、彼に、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

いや、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき

きき、きき、きき、きき